

## 教材紹介(4コマ漫画作文)

新山小学校

北澤 淳子

『国語のできる子どもを育てる』(工藤順一著)で提唱されている**4コマ漫画作文**です。通常学級でも扱ったことがありますが、自情障学級高学年のグループ学習で行ったところ、とても意欲的に取り組み、自分の作文に取り込んでいく姿勢が顕著に見られました。

題材にしたのは・・・『コボちゃん』植田まさし著

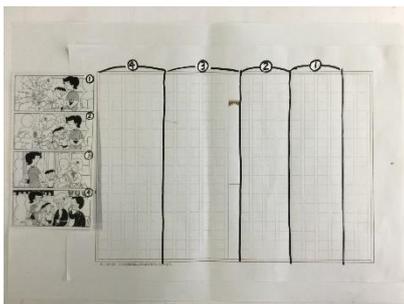
「いたづら編」ですが、主人公コボちゃんは大人を貶めようとか、いたづらをして楽しもうという意図は全くないのです。ただ大人の言葉を字義通りに受け取り、その思惑とずれた行動をとってしまい、結果として大人が右往左往するという話がたくさんあります。

時に相手を思い一途に行動したのに、裏目に出てしまうこともあり、子どもにしてみたら「こうなるよな」と共感を覚える内容だと思えます。

また、コボちゃんが言葉や見たものから連想する物がユニークで新鮮味があり、楽しめます。



### 授業展開



- ①200字詰め原稿用紙へ、1コマずつの漫画を文章に置き換える。
- ②交換して読み合い、いいなあとと思う所へ赤線を引き、余白へコメントを添える。
- ③友だちの作文の良さを発表し合う。

### 良かった点

- ・ 題材が決まっているので、とりかかりが良く、短時間で抵抗感なく書ける。
- ・ 共通の題材を扱い、各々の目の付け所や解釈、表現が異なる作文を読み合うことで、見方や表現に幅が出てくる。認められたことは、また使ってみようという意識付けができるし、友だちのいい表現は、自分の作文に取り入れてみようという活かしている。
- ・ 教師も同じ立場で加わると、教師の作文を読むことで、さりげなく語彙を増やしたり、見方を広げたりすることも期待できる。
- ・ 書いて、すぐ認められるような授業展開にもっていけるので、子どもたちの自信につながりやすい。
- ・ 登場人物の思惑の食い違いを説明するために、気持ちを想像することがふえる。そして、それぞれに思いや考えは自分と異なることもあるということを、学んでいける。
- ・ 漫画には起承転結の転にあたる部分が必ずあるので、日頃、「一生懸命～しました。」「結果、～になって良かったです。」という単調な流れの作文しか書けなかった子どもが、そこへ、「ところが」や「しかし」などの逆接の接続詞を使いながら、順風満帆で行けなかった部分、最も自分が心を砕いた部分の描写を加えようと、文章構成の仕方に変化を見せた。